

# シャローム shalom 2011.09 No.107



## 日本バプテスト病院看護部の展望

日本バプテスト病院 看護部長 うめむら みちよ 梅村 道代



2010年11月、多くの人に愛され趣のあった病院の建物は取り壊されましたが、バプテストらしさを随所に残しながら日本バプテスト病院は再び新しく生まれ変わりました。建物の外観だけでなく電子カルテをはじめとするIT化が進められ、まさしく時代の流れに沿った看護を提供していくことが求められています。よりよい看護を患者さんに提供するためには、一人ひとりが持てる力を最大限発揮できることであり、そのためには質の高い看護の提供を妨げる環境そのものを変えていく必要があります。その環境の多くは人員配置の引き上げや労働条件の改善など制度によって定められていますが、当院における働く環境について再考し整えていくことが今、重要であると考えています。

また、職場のあり様や可能性、あるべき姿として、スタッフ一人一人が尊重される暖かい組織、リーダーシップが発揮できる活気ある職場、支援的で肯定的な職場の実現であると考えています。それは、お互いが承認しあう関係性が持て、ポジティブな思いに共感できる場が生まれると同時に、仕事の価値や強みを確認できることだと思います。

これからのキーワードは「人と人とのつながり」であると確信しています。人との関係性が混沌とした困難な今でこそ力を合わせ、あるべき姿に近づけられるよう現実とのギャップを見据え前に進んでいきたいと思っています。

# Relay Column

バプテスト リレーコラム vol.4

## 栄養給食課

かねこ みどり  
主任 金子 緑 (管理栄養士)



ある日の糖尿病食

栄養給食課は、現在、3名の管理栄養士がおり、給食業務は、委託業者が行っています。

管理栄養士の2名は、外来患者さん、入院患者さんの栄養指導、糖尿病教室、妊婦教室、入院患者さんの栄養管理を担当し、もう1名は、栄養サポートチームの専従として、主に低栄養の患者さんや食事のすすまない患者さんなどの栄養管理を担当しています。

栄養指導では、生活習慣での食生活の修正や助言をしています。

外来の指導室には、食品模型やパンフレットなど置き、患者さんに見ていただきながら指導を行っています。

糖尿病教室は、糖尿病療養指導士の資格をもつ者もあり、毎週水、木、金曜日に行っています。曜日により、昼食時に食事をしながらの指導を行い、目で見て食事量を覚えていただくようにしています。

妊婦教室は、第1土曜日に中期マザークラスを担当しています。



糖尿病教室

栄養管理では、疾病、創傷を栄養の面からサポートすることで早い改善、治癒に結びつけようと計画します。その中でも専従管理栄養士は、食事時には病棟へ出向き、患者さんの食欲や食事量などを考慮し栄養状態の改善に努めています。

また、当院には栄養サポートチームがあり、チームでの回診なども(木曜日午後)行っています。



栄養サポートチームによるカンファレンスと回診風景

給食業務は管理栄養士を含む約15名のスタッフが担当しています。普通食から治療食まで、約20種類の食種を、それぞれ病状に合わせて、献立調理を行い、年間の行事に合わせて、お雑煮、おせち、雛祭り、クリスマスそして、年越しそば等の行事食もお出ししています。

患者さんに少しでもおいしく、安全に食べていただき、元気になっていただこうとスタッフ一同がんばっております。これからも患者さんに喜んでいただけるよう、日々努力を重ねていきたいと思っています。



私たちが給食を担当しています

# スタンドグラス グラスのかけら

# Stained Glass

聖書のことば～語りかける魂のことば 第4回

牧師・チャプレン  
はまもと きょうこ  
浜本 京子



東洋では挽き臼で麦や米を挽くときには歌を歌う。西洋ではあまりない習慣らしい。石臼をごろごろとまわす音は、聖書では平和と幸福を表す。

エレミヤ書では、喜び・祝いの声、花婿・花嫁の声、ともし火の光と共に、挽き臼の音を挙げる。なぜ挽き臼の音が平和で幸福の音なのか。

それは家々が家族のために日ごとのパンを作る音だからだ。毎朝女たちがパンのための粉を挽く。ごろごろという挽き臼の音が町の家々から聞こえてくる。

今日も食物があり、家族がいて、食事を取ることができるという証。人間の安寧、平和の音。

聖書で挽き臼にはもう一つの意味がある。

麦が、米が、大豆が上石につぶされていくように、挽き臼は人間の試練、訓練、時には一種の屈辱を表す。

「挽き臼あるいはその上石を質に取ってはならない。

命そのものを質に取ることになるからである。」

挽き臼に示される人間の安寧と試練。

どちらも重く、神から与えられるものだから、

聖書は簡単に人の手に渡してはいけないと教えた。それは命そのものだからである。示唆多き言葉である。

挽き臼あるいはその上石を質に取ってはならない。命そのものを質に取ることになるからである。

申命記 24章6節

## 希望を支える緩和ケア

ホスピスに来るまでは、死にゆくときの精神的な苦痛といえ、そのまま命が消えること、すなわち今を失い未来を失い、また友人家族とのつながりが途絶えることだと思っていました。それはたぶん、間違いではないでしょう。

ところがいざ働きだしてみると、患者さんの多くは自分で自分のことができないこと、たとえば食事、トイレ、歩行、着替えなどが一人でできないことにも強い苦痛を感じていらっしやることに気づきました。自律性の喪失です。

体力が衰え、立つこともままならない方。それでも歩い

てトイレに行きたいと、毎日一人で動こうとされます。いつ転んでもおかしくない状態で、こちらとしてはぜひナースコールを押してほしい。しかしその人にとっては“一人で”トイレに行くことに大きな意味があるのです。自分で自分のことができる、それはその人にとって、もしかしたら最後の希望になるのではないのでしょうか。

死にゆく過程において、人は必ず身体の自律性を失っていきます。その人の希望を消してしまわないように、何ができるのか？自分に問いかける日々が続きます。

ふくだ あきこ  
ホスピス医 福田 暁子

## 新任ドクター紹介

みなと ゆ み こ  
内科医長 湊 友美子



数年前より非常勤医師として、消化器内科外来、内視鏡検査を担当してきましたが、このたび常勤消化器内科医として働かせていただくこととなりました。  
（平成9年卒）  
どうぞよろしくお願い申し上げます。（2011年7月1日着任）

## イベント報告

### 日本バプテスト病院 5月のチャペルアワー

参加者  
30名

5月18日(水)の午後、『MIRE音倶楽部の仲間たち』3名をお迎えし、歌と演奏を聴かせていただきました。こころ安らぐひと時をもち、一緒に讃美歌を歌い、久しぶりに声を出して歌ったと笑顔がこぼれていました。



## イベント報告

### 日本バプテスト病院 6月のチャペルアワー



6月15日(水)の午後、桂出丸氏をお迎えして落語のひと時を楽しみました。十字架を背にした出丸氏の熱演に、チャペルが皆さんの笑顔と笑い声で溢れました。

参加者  
24名

## お問い合わせ

TEL: 075-702-5927

E-mail: a.yamamoto@jbh.or.jp

総務課 山本まで

## イベント予告

### 京都・生と死を語り合う

### 第2回 バプテスト・ホスピス緩和ケア勉強会

日 時: 2011年10月15日(土) 14:00~

場 所: 西陣織会館(堀川通今出川下る)

内 容: パネルディスカッション

「援助者自身がここを動かされた事例を通じて」  
ゲストコメンテーター 圓通寺 住職 北園 文英氏  
特別講演「よく生き よく笑い よき死と出会う」  
上智大学名誉教授 アルフォンソ・デーケン先生

参加費  
無料

### 日本バプテスト連盟医療団

### 2011年10月 Mission Weekコンサート

日 時: 2011年10月29日(土) 14:00~14:40

出 演: 青野 浩美氏(声楽家)による歌とお話

会 場: イマヌエルホール(病院北側看護学校1階)

※催しは都合により中止・変更になる場合があります。

また、ご入院中の方のみのご参加にさせていただきます場合があります。ご了承下さい。

## 編 集 後 記

世界に衝撃を与えた同時多発テロから10年を迎えました。私は9.11のあった日、サンフランシスコのホテルにいました。日本に帰る日の朝でした。そして今年には日本にとって大きな衝撃から半年が過ぎようとしています。JBHは旧館が解体され、昔のものは何もなくなったと思っていましたが、老健と病院の間に昔のままの場所を発見し、ほっとさせられ感謝の思いです。(Y.N)

## バプテストで働きませんか

京都の北東、北白川の地に静かにたたずむ緑多い環境の中で、全人医療の技に励む私たちとともに働きませんか

採用情報 <http://www.jbh.or.jp/saiyou1.html>

## 献金・献品感謝ご報告

(2011.5.1~6.30) 敬称略

井村 民枝 八田 一郎 田中 愛子 田中 洋子

山崎 正義 野村 純世 溝瀧 美音

高橋 真喜子 才藤 千津子 鴨東教会教会学校

社会福祉法人 京都ライトハウス

日本バプテスト連盟 東大阪キリスト教会

## 日本バプテスト病院の基本理念は全人医療です。

人間は「からだど、こころと、たましい」からなる全人格的な存在です。

当病院は、イエス・キリストの隣人愛に基づき、全職員がよいチームワークを保ち、専門的知識と技術を活かして、全人医療の業に専念します。

シャローム No.107 2011年9月発行 発行/日本バプテスト連盟医療団 発行人/理事長 山岡義生 編集/日本バプテスト病院広報委員会

この広報誌は日本バプテスト連盟医療団のはたらきを広くお知らせするために作成しております。

著作権、個人情報保護の観点から、流用・転載を固くお断りいたします。

日本バプテスト病院 <http://www.jbh.or.jp/>

バプテスト老人保健施設 <http://www.jbh.or.jp/roken/>

バプテスト眼科クリニック <http://www.eye-clinic.gr.jp/>

バプテスト訪問看護ステーション <http://www.jbh.or.jp/sisetsu/houmonkango.html>

バプテスト在宅ホスピス緩和ケアクリニック <http://www.jbh.or.jp/bhh/>

日本バプテスト看護専門学校 <http://www.jbsn-kyoto.com/>